



日本における県別, 部位別癌死亡率の観察

著者	松山 恒明
号	297
発行年	1965
URL	http://hdl.handle.net/10097/18059

氏 名 まつ やま つね あき
松 山 恒 明

授 与 学 位 医 学 博 士

学位授与年月日 昭和 4 0 年 3 月 2 5 日

学位授与の根拠法規 学位規則第 5 条第 1 項

研究科・専攻の名称 東北大学大学院医学研究科
社会医学系

学 位 論 文 題 目 日本における県別，部位別癌死亡率の観察

指 導 教 官 東北大学教授 瀬 木 三 雄

論文審査委員 東北大学教授 高 橋 英 次

東北大学教授 山 形 敏 一

論文内容要旨

1) 序 言

日本における県別、部位別癌訂正死亡率を算出し、これによつて我国の癌死亡状態の観察を行つた文献としては、東北大学医学部公衆衛生学教室より、長内(1951—53年)、菅沼(1954—56年)の発表があるが、更に長年次に亘り計算を行つたものはない。筆者は1950年から1959年に至る10年間の県別、部位別癌訂正死亡率を間接法により算出しこれを観察すると共に、標準化死亡指数によつて、各県別の癌の地理的分布状態について検討した。更にこの訂正死亡率の数値を用いて各部位間、及び男女間の相関係数を計算し、これらについての考察を行なつた。

2) 資料および方法

悪性新生物(国際基本分類140—205)の内、主要な24部位を選び、前記10年間について都道府県別癌死亡数を合計した。標準人口及び県別の性別年齢別人口は1950年、55年、60年の国勢調査人口(1960年のみ1%抽出)を用いた。全国の死亡率と各県の標準化死亡率(全国の年齢別死亡率を各県の年齢別人口に適用した場合の期待死亡率)との比を、各県の粗死亡率に乗じて年齢訂正死亡率を算出した。次に各県別癌死亡の観察死亡数と期待死亡数(全国の年齢別癌死亡率を各県の年齢別人口に乘じ、これを合計した値)との比をとり、これに100を掛けて標準化死亡指数とした。(この指数は全国死亡率を100とするときの上記県別年齢訂正死亡率の指数に相当する)更に年齢訂正死亡率を用い、各部位間の相関係数を計算した。

3) 結 果

国内における癌の地理的分布について、主として標準化死亡指数及び相関係数を観察して得た主な結論は以下の通りである。

1・全癌：男では東北地方及び中部地方の日本海沿岸の各県、並びに奈良とその周辺が高率を示す。四国及び九州地方は一般に低率で、最南端の鹿児島は死亡率最低である。女においても中部地方の日本海岸沿いの2県並びに奈良が高率である。

2・口腔及び咽頭癌：男においては南九州に高い地域が集中している。女では北海道、東京の高いことが注目されるが、その他の地域にも高率県が散在している。男女いずれも中部日本において低率である。

3・食道癌：男では東北地方の太平洋岸から関東，更に中部山岳地方にかけて高率地域が認められる。近畿地方では和歌山，奈良の最高率県が隣接している。九州は一般に低率であるが，鹿児島が高率のことが注目される。女でも東北から関東，中部地方にかけての地域と南近畿が高い。

4・胃癌：男女共に北日本の日本海沿岸（山形，新潟，富山）に高率地域を認める。又近畿地方では奈良が周囲の県に比し特に高率である。男女共に南九州の多くの県の率は低く，岩手の低率も注目される。

5・肝及び胆路の癌：男では山梨及び北九州の福岡，佐賀，長崎が高率を示すことが注目される。女についてみると，中部地方の一部と北関東地方に高率県を認める。

6・喉頭癌：男では大阪とその隣接諸県が高い率を示す。北海道から東北にかけては大部分が低い率を示す。女では近畿の一部と四国より九州にかけての地方に高い率を示す県がある。

7・肺癌：男では東京を始めとして大都市を含む地域に高率の所が多い。女にもこの傾向があるが男ほど明らかではない。北海道，宮城も男女共高率である。

8・乳癌：比較的高率の県として東京，神奈川が目立つ他，高率県は散在している。鹿児島および瀬戸内海に面する数県が低率である。

9・子宮癌：九州地方に高率県が集中しており，特に北部の4県，即ち大分，佐賀，福岡，長崎が高い率を示す。

10・皮膚癌：男についてみると，九州の大部分の県が高率であり，四国の一部，本州南端の山口も高い。一方東日本には低率県が多い。女でも男と同じく高率県は南九州に集中してみられる。

11・白血病：男女共に高率県は散在している。

次に各部位別，男女別に県別癌訂正死亡率の相関関係を検討すると，男女共有意の順相関を示す主要な部位は，口腔・咽頭と呼吸器，舌と喉頭，舌と骨，食道と喉頭，腸と直腸，腸と肝，肺と脾，肺と腎であり，有意の逆相関を示すのは皮膚と消化器，皮膚と脾である。又性器の癌の相関についてみると，女の乳房と前立腺との間，卵巣と前立腺との間に有意の順相関がみられる。

審 査 結 果 の 要 旨

筆者は日本における諸部位の癌の地理的分布を観察するため、悪性新生物（国際基本分類 140-205）の内、主な23の部位を選び、1950年から1959年に至る10年間の県別、部位別癌訂正死亡率を間接法により算出した。ついでこの訂正死亡率より得られた標準化死亡指数を用いて各県別の癌の地理的分布状態について検討し、更に各部位間、男女間の相関係数を計算し、これらについても考察を加えた。主な結論は次の通りである。

全癌では男女共に中部地方の日本海岸沿いの数県、並びに奈良が高率である。男においては四国および九州地方が一般に低率で、最南端の鹿児島は死亡率最低である。

食道癌では男女共東北地方の一部から関東地方、更に中部山岳地方にかけて高率県を認める。南近畿の一部にも高率地帯がある。九州地方には低率県が多いが、男において鹿児島が高率（高位順9位）を示すのが興味深い。

胃癌では男女共に日本海沿岸の3県（山形、新潟、富山）が高く、又奈良も高率である。南九州の諸県及び岩手の低率であることが注目される。

肝及び胆路の癌についてみると、男では山梨及び北九州の3県が高率である。

肺癌の男では、東京、神奈川、京都、大阪、福岡の如く、大都市を含む地域に高い。北海道、宮城は男女共に高率である。

子宮癌では北九州に高率県が集中している。

皮膚癌では男女共西日本に高率県がみられ、特に九州地方の大部分の県が高率である。一方低率県は東日本に多い。

次に県別、部位別癌訂正死亡率の相関関係についてみると、男女共有意の順相関を示す主な部位としては、舌と喉頭、舌と骨、食道と喉頭、腸と直腸、腸と肝、肺と脾、肺と腎があり、有意の逆相関を示す部位としては、皮膚と消化器、皮膚と脾がある。又、性器の癌の相関についてみると、女の乳房と前立腺、卵巣と前立腺との間に有意順相関がみられる。

上記の研究結果にかんがみ、この論文は日本における諸部位の癌の地理疫学的究明に貢献したものと信ずる。

よつて本論文は学位を授与するに値するものと認める。